



「本気プロ」の現在とこれから

小樽商科大学商学部社会情報学科 准教授 大津 晶

■実践教育の現場としての地域

人口減少や少子高齢化、中心市街地の空洞化と地域コミュニティの弱体化、観光振興や地域ブランディングを通じた地域間競争など、現代の地方都市は多くの複合的社会課題に直面しており、むろん小樽も例外ではありません。しかし誤解を恐れずに申し上げるならば、“現代的社会課題の先進地域”とも言える小樽は、大学生の教育環境という観点からはむしろ極めて恵まれた環境だと言えるように思います。地域と大学が事実上一対一の関係を100年間継続してきているという積み重ねは、他地域に対するアドバンテージであり差別化要因でもあります。その価値はまさにプライスレスと言って良いでしょう。

その恵まれた“教育資源”を最大限に生かした教育プログラムとして平成20年度に開始した「商大生が小樽の活性化について本気で考えるプロジェクト（通称：マジプロ）」も、すでに5期目を迎えました。このようなプロジェクト実践を通じて学ぶ課題解決型の教育はPBL (Project/Problem Based Learning) と呼ばれ、近年多くの大学で導入が進められています。前述のように本気プロは、その“課題”と“学びの場”の両方を地元小樽から提供いただいているわけですから、<現場での学び>という意味では一種のインターンシップとも言えます。①学生が取り組むテーマが地域性に富んだものであり、②学生と地域の企業・団体などとの協働で、③半年間の長期にわたって課題解決に取り組む、という点が本気プロの特徴です。

■今年度の本気プロについて

平成20年の開講当初は観光振興や中心市街地活性化を中心に課題を設定していましたが、毎年徐々にご支援の輪が広がり、今年度は73名の学生が、1) 小樽・後志の地産地消の推進、2) デザインによる小樽ブランディング、3) 観光情報コンテンツの制作と活用、4) 地域コミュニティの強化、5) 祝津のエリアマネジメント、5) デジタルサイネージを活用した地域情

報発信、7) スポーツを通じた世代間交流の促進、8) ラジオドラマによる地域プロモーション、9) 健康食品の開発と販売、10) 現代的リズムのダンス創作と普及、11) 小樽・手稲の地域間交流の促進、12) 小樽運河の魅力再発見、という幅広いテーマに取り組んでおります。

なお、今年からフェイスブックを用いて全てのプロジェクトの活動過程を公開していますので、ぜひwww.facebook.com/oucmajiをご覧ください。また今年度の活動の中間発表会を10月20日(土)の午後に運河プラザ三番庫にて開催予定です。こちらにもぜひご参加下さい。

■本気プロの成果と今後の展開

本気プロを受講した学生たちのその後の学内での活動や就職後の様子を観察すると、専門知識の応用力や実践力の向上、社会人基礎力の育成、大学生生活全般へのモチベーション喚起などの観点において間違いなく教育効果があがっており、文字どおり「地域に学生を育てていただく」ことが実現（再現？）しつつあるように感じられます。

一方で、本気プロが本来の目的として謳っている「地域活性化」や「地域の課題解決」への寄与についてはまだまだ物足りないと言わざるを得ない状況ですが、地域活性化の足枷となりがちな“大人の事情”や“しがらみ”とは無縁の若い大学生たちが「空気を読まずに」のびのびと活動することで、「頑張っている商大生のため」と協力の輪が広がるといった副次的な効果があることは強調しておきたいところです。

今後も他地域の成功事例などを研究しながら、課題設定や指導方法の改善を図ると同時に、本気プロで生まれたアイデアをより大きな枠組みで本物の地域活性化プロジェクトとして育てていく仕組みについても検討を進めております。今後も厳しく且つ優しい目で見守りつつ、大人の本気を見せていただければなによりです。